

阿須賀神社

阿須賀神社はユネスコの世界遺産に登録されており、古代神道の信仰の場です。熊野川のほとりにある蓬莱山の麓にあります。自然崇拝に根ざし、神道と仏教の古代の融合である熊野信仰の、最も重要な場所の一つと考えられています。阿須賀神社は、二千年も信仰されている歴史を持つ蓬莱山を御神体としています。阿須賀神社も蓬莱山も、熊野三山のうちの2つである熊野速玉大社と熊野那智大社を繋ぐ巡礼の道中にあります。

山の基礎部分からは、弥生時代と古墳時代（それぞれ紀元前 300 年～300 年、紀元前 300～25 年）の懸仏が 190 以上、発見されました。懸仏は仏教の彫刻が掘られ、吊り下げることが出来て丸い形状です。台風の際に神社の敷地内の木が吹き飛んだときに発見されました。

懸仏は神社の歴史よりもさらに古いものでは、と歴史研究家は考えています。地元の人々が、作物を川の洪水から守るために捧げたものかもしれません。懸仏は境内の資料館で訪問者向けに展示されています。

中国の学者である除福がここに祀られています。彼は 2,200 年以上前、中国の皇帝から蓬莱山にある不老不死の霊薬を探しに、日本へ航海をするように命じられました。彼は薬草の天台烏薬を見つけ、これは不死の鍵を握っていると信じていました。地元では彼は新しい農業と漁業の手法を伝授したことで、大いに称賛されています。